

巻頭言：地域資料について	1
特集：専門図書館探訪	2
神奈川県立公文書館 / 公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター図書室	
令和 2 年度 神奈川県図書館協会 臨時総会 開催報告	4
令和 2 年度 人材育成事業	5
連載：わたしのイチオシ「物語でめぐる星の世界—プラネタリウムと読み聞かせ—」	6

地域資料について

地域資料委員会委員長（横浜市中心図書館） 稲葉 伊岐子

平成 31 年 4 月から地域資料委員会の委員長を拝命いたしました横浜市中心図書館の稲葉です。

地域資料委員会の活動は、昭和 30 年 12 月に発足した「神奈川県郷土資料集成」の編集委員会に端を発します。協会での地域資料についての議論をさらに遡ってみますと、昭和 26 年 5 月の『神奈川県図書館報』第 11 号に、小田原市図書館長石井富之助氏による「郷土資料の収集について」という一文があります。氏は「郷土資料の収集が地方図書館の重要使命であることは昔も今も変わらない。」と述べ、郷土資料の定義やその収集範囲について論じ、さらに「資料不足をこれから百年後、二百年後の人々に及ぼさぬように、私はできるだけ広範に集めい（ママ）と念願しているのである。」と述べています。また、第 9 号（昭和 26 年 2 月）では、関東地区ワークショップ部会報告の中で郷土資料の収集と整理について述べており、結論として郷土資料、地方行政資料は「出来るだけ広義の見地から収集すること、その為には足を出来るだけ働かせるより他なし」とあり、今と変わらぬ収集の苦労が伝わってきます。

この『神奈川県図書館報』ですが、昭和 25 年 6 月に第 1 号が刊行され、当時神奈川県中央図書館に指定されていた横浜市中心図書館が発行所となっています。その後、第 21 号（昭和 30 年 2 月）から神奈川県立図書館内 神奈川県図書館協会となり、第 22 号（昭和 31 年 11 月）からタイトルが『神奈川県図書館協会報』となっています。

編集委員会は、平成 10 年までに「神奈川県資料集成」13 輯を編集発行し、平成 13 年に郷土・出版委員会となり特別篇 3 冊を刊行。平成 27 年度からは名称・目的が変更され、地域資料委員会が発足しました。

令和 2 年は新型コロナウイルス感染症というこれまでにない脅威の中で、多くの図書館がサービスの縮小を余儀なくされました。そのような中でも「資料不足をこれから百年後、二百年後の人々に及ぼさぬように」という先人の言葉の重みは変わることはなく、だからこそ、しっかりと地域資料の収集・提供に取り組んでいきたいと、書庫に眠る『神奈川県図書館報』の黄ばんだページをそつと繰り返しながら思う次第です。

専門図書館探訪

専門図書館には、その分野における論文が書けるくらいの、範囲は狭いけれども「より専門的な」資料が揃えられています。入館に際し予約が必要な館がありますので、手軽さには欠けますが、本腰を入れて調べ物をする際にはきっとお役に立てます。今回は、「行政・歴史」と「保健・福祉・医療」という、全く異なる分野から一つずつ、二つの館をご紹介します。

神奈川県立公文書館 神奈川の歴史の手がかりを守ります

神奈川県立公文書館は、平成 5 年（1993 年）11 月 1 日に、横浜市旭区中尾に開館しました。

神奈川県立公文書館設立までの経緯は、昭和 40 年代に遡ります。神奈川県では、神奈川県政 100 年を記念して、昭和 41 年に県史編集準備室が設置され、翌年から県史の編集が始まりました。

この時に収集した資料を、県史編集事業終了後においても保存し、県民も利用できるようにと、県立図書館に併設された文化資料館が、公文書館の前身となります。

公文書館では、文化資料館時代から受け継いだ歴史資料に加え、県の各機関で作成された公文書や、県内の旧家などから寄贈、または寄託された古文書を所蔵・管理し、閲覧に供しています（貸出はしていません）。

課題のための資料を探す学生さんから、論文を書かれる研究者の方、古文書を読みたいリタイア世代までと幅広い層にご利用いただいています。

資料の管理や検索に関しては、平成 31 年 4 月 1 日から新公文書館情報管理システムが稼働し、資料の検索や、閲覧申込予約を Web 上で行えるようになりました。

公文書館が、通常の図書館と大きく違うのは、県の各機関で作成された公文書を、収集（右写真参照）、選別し保存していることです。



※横浜市郊外の静かな高台に佇んでいます※

そして、これら唯一無二の資料を、適切な状態で保管し利用に供するために、温度や湿度を厳重に管理できる書庫を備え、横浜市の中でも海から離れた、高台に位置することで、水の被害からも守っています。

その他にも、劣化した資料の修復などにも取り組んでいます。

また、毎年、古文書講座、夏休み小・中学生親子講座、アーカイブズ講座、生涯学習講座といった、各種講座、催し物を実施したり、職場体験やアーカイブズ実習などの受入れもしています。

都会の喧騒から離れた住宅街の中の、静かな施設です。敷地内には広い緑地や遊歩道もあります。

最寄り駅は相鉄線二俣川駅で、運転免許センターの近くになります。駅からは少し距離がありますので、ご来館の際は、バスのご利用をお勧めします。

（県立公文書館 資料課 高崎保幸）

当館 Web サイト

<https://archives.pref.kanagawa.jp/www/index.html>

※現在、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、来館は電話による完全予約制になっています。来館希望日の前日までに、(045)-364-4461 又は(045)-364-4454 までご連絡ください。



※県内全域から集められ、選別を待つ公文書。

手前は箱を移動させるローラーです※

保健・医療・福祉人材の育成を支える図書室

実践教育センターは、保健・医療・福祉分野で活躍されている様々な職種の方々のレベルアップを図る現任教育機関として、2003年4月、神奈川県立保健福祉大学の開学に併せて附置されました。

実践教育センターの「源流」は1975年創立の県立看護教育大学校で、看護教員や認定看護師、看護管理者の養成教育は大学校から受け継いでいます。

図書室はおもに大学校図書室の蔵書を引き継いで開室しました。同じ校舎にある県立よこはま看護専門学校の図書室も兼ねています。

県立保健福祉大学附属図書館とは図書館システムを共有しており、週2回の連絡便により資料の相互利用を行っています。また、NIIや県の図書館ネットワーク等を利用した県内外の機関（病院図書室を含む）との相互利用も活発に行っています。所蔵資料数（2020年3月末時点）は図書約35,000冊、学術雑誌約160タイトル、視聴覚資料約1,300点。外部データベースとしては、日本国内の医療分野での基本的なデータベースである「医学中央雑誌web版」をはじめ、「JDream III」「メディカルオンライン」等を導入しています。

利用対象は幅広く、両校の学生・教職員や県立保健福祉大学の学生・院生はもちろん、専門資料を必要とする18歳以上の外部の方にも、一般利用者（予約制）としてご利用いただいています。卒業生や県内の保健・医療・福祉関係従事者のご利用も多

く、現場で働く方の研究等をサポートしています。

（2020年8月時点では新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一般利用者の利用を休止しています）

専門図書館としての特徴は、やはり蔵書構成に反映されています。図書の分類別構成は、医学・看護学分野が約60%、社会福祉を含む社会科学分野が約30%となっています。看護関係の資料については、母体が看護教育大学校であったことと、県立よこはま看護専門学校の図書室でもあることから基礎分野が充実しています。また、実践教育センターが行っている指導・管理者養成、高度専門等の各教育研修を支えるための専門資料も多く所蔵しています。

カウンターに寄せられる利用者からのレファレンスは、専門用語が多く含まれており、対応する司書も日々勉強が必要です。両校の学生が受講する、文献検索・文献検討の授業の中には司書が講師を行っているものもあり、資料・情報へのアクセスを支援する取り組みにも励んでいます。

常勤1名非常勤2名の交代勤務で運営している小さな図書室ですが、保健・医療・福祉従事者の生涯にわたる継続教育と、看護師育成教育とを支える大きな役割を担って、幅広いニーズに応えるべく頑張っています。

（神奈川県立保健福祉大学

実践教育センター図書室 青山香澄）



令和2年度 神奈川県図書館協会 臨時総会 開催報告

第22回図書館総合展への出展中止について、8月16日付書面にて臨時総会を開催したところ、原案通り承認されましたので、経緯と結果を報告します。

6月下旬に、図書館総合展事務局から当協会に、令和2年度の第22回図書館総合展についてはオンライン開催方式に転換するとの連絡がありました。図書館総合展とは、館種を超えた図書館界全体の交流・情報交換の場として、平成11年から開催されている展示会です。主催は図書館総合展運営委員会であり、毎年10月から11月頃に3日間開催されています。第6回（平成16年）以後の会場がパシフィコ横浜になったことから、運営委員会から当協会に後援と出展の依頼があり、第6回（平成16年）から第21回（令和元年）まで継続して後援と出展を行っています。

この度導入するオンライン開催方式では、ブース、フォーラム、ポスターという従来の出展枠を廃し、ウェブ上の「出展団体ページ」の枠を申込み、各枠に付されるサービスやオプションを利用することになります。当協会に関係する条件は次の通りです。

<出展料>

「出展団体ページ」1枠75,000円の非営利枠出展に該当する。（予算内での出展は可能）

<フォーラムのリモート開催方法>

- ・録画や中継の会場は各出展団体で準備する。
- ・収録場所や設備のない団体のために、有料オプションが用意される。

このように、例年とは異なる条件で出展が可能かどうか、企画委員会で意見聴取を行い、その結果をもとに、今年度の出展は中止するという案を理事会に諮ることといたしました。

書面による理事会の形式で実施し（7月30日付）、副会長及び理事19名中18名（未回答1名）から議題「第22回図書館総合展への出展中止について」は原案通り承認されました。

この結果を踏まえて、加盟館の御意見を伺うこととし、8月16日付書面にて臨時総会を開催いたしました。

審議事項である、第22回図書館総合展への出展中止について、加盟館132館中119館（未回答12館）から、原案通り承認されました。付帯意見は次の通りです。

- ・今現在もコロナが増えているので展示は中止にしたほうが良い。
- ・承認しますが理由を明らかにして頂きたかったと思います。

以上の経緯により、当協会による第22回図書館総合展への出展はしないことになりました。

【参考】

第22回図書館総合展（オンライン開催）

会期：2020年11月1日（日）～11月30日（月）

コアタイム：11月4日（水）～6日（金）9：00～18：00

会場：オンライン／図書館総合展公式ウェブサイト

主催：図書館総合展運営委員会

神奈川県図書館協会 令和2年度 人材育成事業

神奈川県図書館協会では、平成 30（2018）年に創立 90 周年を迎えたことを記念し、2019 年度～2023 年度までの 5 年間、当協会の構成団体の職員が、あらかじめ定められた研修に参加する際の経費を助成しています。

令和 2 年度助成対象事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から事業が中止となった場合、対象から除外いたします。

- ① 全国図書館大会 和歌山大会（オンライン大会） 11 月 20 日～30 日
- ② 関東・甲信越静地区 図書館地区別研修（静岡） 12 月 1 日～4 日
- ③ 全国公共図書館研究集会（サービス、総合・経営部門）（大阪）2021 年 1 月

- ※ 専門図書館協議会全国研究集会は中止となったため、対象事業から除外。
- ※ ②以外は全日程参加（情報交換会等は除く）②は概ね 3 日以上に参加を原則とする。
（研修日程の概ね 4/5 以上を受講し、研修成果について、研修終了後 2 週間以内にレポート（1,200 字程度）を提出した者に修了証書が授与されるため）

助成対象者

神奈川県図書館協会加盟館に勤務する職員であること。ただし、過去に当該助成を受けたことのある職員は除くものとする。

募集

今年度から全研修を一括募集とする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、対象事業の実施予定が変更を余儀なくされている事情から、都度募集を行っております。

	事業名	募集予定人数	募集開始時期(予定)
1	全国図書館大会 和歌山大会(オンライン大会)	3人	募集終了
2	関東・甲信越静地区 図書館地区別研修(静岡)	1人	10 月下旬
3	全国公共図書館研究集会 (サービス、総合・経営部門)(大阪)	1人	11 月下旬～12 月上旬

物語でめぐる星の世界ープラネタリウムと読み聞かせー

星空を眺めながら読み聞かせに耳を傾けるー。
とても素敵なひと時だと思いませんか？

いつもは川崎市立多摩図書館で子どものためのおはなし会を開催しているボランティアさん達が、年に1回、プラネタリウムを舞台に大人に向けて読み聞かせを行っています。『物語でめぐる星の世界』は平成25年度に始まり、昨年度までに5回、開催されました。同じ区内にある川崎市の施設、かわさき宙（そら）と緑の科学館との協働事業になります。

たった一夜限りの読み聞かせのための準備は1年近く前から始まります。

はじめにテーマを決めます。テーマは「満月」「惑星」など、その時のメンバーで話し合って決めます。テーマに沿って読み聞かせる本を選定し、朗読する場面を選びます。投影される夜空をイメージしながら全体の流れを決めて、台本の作成も一からボランティアさんが行っています。

台本が出来上がると、それを基にプラネタリウムの職員が、実際に投影する映像を作成します。



イベントに併せて行った特集展示

昨年度読み聞かせを行った『星の王子さま』では架空の星座を作製し、本の挿絵なども投影しました。他のどこにもないオリジナルの夜空です。その後は何度もリハーサルを重ね、本番を迎えます。

毎年楽しみにしていたださる方もいて、昨年度も好評を得ました。今年度はコロナウイルス感染症の流行により、開催は未定ですが、次回に向けて準備を始めています。

(川崎市立多摩図書館 小林 菜摘)



かわさき宙(そら)と緑の科学館(プラネタリウム)